

令和7年度 先生と地域の方がともに学ぶ コミュニティ・スクール、地域学校協働活動研修会

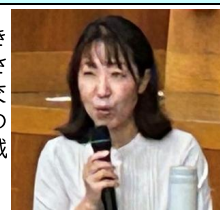
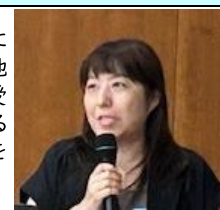
第1日目 「CS（コミュニティ・スクール）・地域学校協働活動を知ろう」	
CS・地域学校協働活動A	CS・地域学校協働活動の基礎・基本 ～分からないこと・困っていることをコンサルタントに聞いてみよう～
講義Ⅰ・演習Ⅰ	知多市生涯学習スポーツ課 地域学校協働活動統括コーディネーター 愛知県CS・地域学校協働活動コンサルタント 澤田 広彰 氏
知多市の事例をもとに、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の導入プロセスや具体的な取組について御紹介いただきました。モデル校の設定や規則の整備、教職員研修・地域説明会の開催など、自治体と学校が連携して進めています。地域と学校の関係性を「土」と「風」に例えた表現が印象的で、協働の意義を改めて考える機会となりました。教職員の不安や疑問にも寄り添いながら、無理なく関わられる仕組みづくりの重要性が強調されており、学校運営協議会の協議の在り方や推進員の人選などについて理解を深めることができました。 	
CS・地域学校協働活動B	公民館と学校の協働活動①
活動報告Ⅰ	半田市乙川公民館 館長 河島 政直 氏
乙川公民館における、地域と連携した「子どもの居場所づくり」の取組について御紹介いただきました。高齢者中心だった公民館の利用層を見守る生徒にも広げ、安心・安全で自由に過ごせる場を提供するため、学習クイズコーナーや地元の人紹介コーナーの設置、季節イベントなど多彩な活動が展開され、魅力ある子供の居場所を実現させていました。地域団体とも協力しながら、子供の自己肯定感やコミュニケーション力の向上を目指し、地域全体で支える体制を整えることの必要性を実感できました。 	
CS・地域学校協働活動B	公民館と学校の協働活動②
活動報告Ⅱ	瀬戸市水南公民館 館長 山本 玉美 氏 広報部長 冬木 裕 氏
瀬戸市水南公民館における、水南小学校と連携した、児童の放課後の居場所づくりとして行われている「アフタースクールサロン」の取組について御紹介いただきました。6月から7月にかけて15回実施され、延べ160名が参加しました。低学年中心に、クラフトや工作、アニメ鑑賞、ゲーム、夏祭りなど多彩な活動が展開されたことで、公民館に馴染みがなかった児童も参加するなど、地域とのつながりを深める機会となりました。開催時期や時間帯の工夫、ボランティアの確保などの課題はあるものの、地域のリソースの発掘と育成につながっていることに気付かされました。 	

第2日目 「地域学校協働活動推進員の果たす役割と展望」	
CS・地域学校協働活動 マネジメントA	学校と地域の連携・協働の実際 ～地域学校協働活動推進員に期待される役割とは～
講義Ⅱ	三鷹市教育委員会統括スクール・コミュニティ推進員 文部科学省CSマイスター 四柳 千夏子 氏
午前中の研修会では、コミュニティ・スクールの理念と地域学校協働活動推進員の役割について、三鷹市の実践をもとに御講義いただきました。学校と地域が「目指す子ども像」を共有し、協働によって教育課題を解決する重要性が強調され、地域の力を活かした学びの事例や、推進員が果たす「つなぎ役」としての役割も具体的にお話いただきました。生徒たちが学校の中だけでなく、地域からも学びを得ることによって、新たな人々とのつながりを生み出すとともに、社会の一員としての意識を育むことにもつながることが分かりました。 	
CS・地域学校協働活動 マネジメントB	子供たちの未来は、今ここにある ～みんなで語り合い、学び合うワークショップ～
演習Ⅱ	三鷹市教育委員会統括スクール・コミュニティ推進員 文部科学省CSマイスター 四柳 千夏子 氏
午後の研修会では、「あいちの子供たちの未来を考えよう」をテーマに、「熟議」を体験しました。一部の人の意見で話し合いを進めるのではなく、みんなが安心して意見を言える場をつくることによって、話し合いが自分事になることや、課題やアイデアを可視化して、個人の意見をチームの意見へとまとめていくことで納得解を導き出せることなどを、実際に体験しながら実感をもって学ぶことができました。そして、これからのコーディネーターは客観的な目を持ち、地域のプラットフォームの担い手となることを期待されていることが分かりました。 熟議 ↓ 熟（熟慮）議（協議） よくよく話し合うこと 模造紙と付箋を使えばいい、ってことじゃありません	

第3日目 「学校を核とした地域づくり、まちづくり」	
地域づくり・まちづくりA	地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える新しい協働のカタチ
講義Ⅲ	全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 大坪 直子 氏
「学校を核とした地域づくり・まちづくり」をテーマに、地域学校協働活動が推進されている背景や、コーディネーターの役割について御講義いただきました。子供たちの成長と地域の教育力向上を目指すためにも、地域コーディネーターが、学校と地域の橋渡し役となり、より多くの地域住民の参画のチャンスをつくるのが大切であると分かりました。また、キャリア教育、防災活動、異年齢交流、地域資源活用など多様な活動事例も紹介され、地域全体で子供たちの成長を支えることで、地域のつながりや新しい地域が形作られることを具体的な姿から学ぶことができました。	
地域づくり・まちづくりB	ほしい未来は自分たちでつくる ～地域づくりはひとつづくり～
講義Ⅳ	益田市立豊川小学校学校運営協議会 会長 河野 利文 氏
益田市豊川地区における地域自治、教育、人材育成、地域資源活用を柱とした実践について御紹介いただきました。段階を経て、子育て支援から空き家活用、関係人口の拡大へと展開していき、現在では子供・中高生の学び支援や地域参画が活発で、進学実績も顕著であるとともに、住民主体の学びの場「ひとまちカレッジ」や移住促進の「とよかわの家」など、地域資源を活かした活動も進められていることに驚かされました。持続可能な地域を目指し、「楽しく」「大人も子供も」「自分たちで」のキーワードに、「ほしい未来は自分たちでつくる」気持ちで取り組むことが大切だと分かりました。	



第4日目 「地域全体で子供たちを支える仕組み」	
子供を支える仕組みA	子供たちの豊かな学びを大切にした放課後子ども教室
活動報告Ⅲ	豊明市教育委員会学校教育課 担当係長 森田 愛 氏 主査 近藤 加奈 氏
豊明市で、平成23年度より行われている「放課後子ども教室」について御紹介いただきました。今年度からは市内全小学校での展開されており、児童クラブと連携し、民間事業者へ委託する形で運営されています。子供たちの安全で健やかな居場所づくりと、次世代育成を目的としており、基本ルールをもとに、地域ボランティアや学生が講座を支援することで、保護者から高い評価を得ています。そして、継続的な運営のためには学校・地域との連携が鍵であることが理解できました。	
子供を支える仕組みA	子供たちの居場所づくりとしての子ども食堂
活動報告Ⅳ	沖村子ども食堂ちいさん・コックさん 代表 谷口 ひとみ 氏
北名古屋市の沖村地区で開催されている、子ども食堂「ちいさん・コックさん」の活動について御紹介いただきました。地域住民や企業の協力のもと、地産・国産食材を活用し、地域の子供たちに温かい食事と居場所を提供しており、毎月開催される時は、調理・配膳・受付など子供自身も運営に関わり、世代を超えた交流が実現しています。食を通じて「生きる力」や「人とのつながり」が育まれており、地域全体の居場所づくりの実現には、人と人をつなぎ、思いを伝え、行動を起こす旗振り役が重要だと分かりました。	
子供を支える仕組みB	子どもたちの学びを支える地域未来塾①
活動報告Ⅴ	尾張旭市 学習支援ランナース 代表 中道 晶乃 氏
尾張旭市で行われている、地域未来塾「学習支援ランナース」について御紹介いただきました。中高生を対象に、学習支援と学校外の居場所づくりのために、毎週土曜日に開催されています。大学生や地域ボランティアが無償で支援しながら、学習だけでなく、異年齢交流や体験活動を通じて人間力や自己肯定感を育てています。今後は、外国人や障がいのある生徒の受け入れ、外部講師による講座など、より多様な学びの場を目指しており、地域とのつながりや大人と子供が一緒に考え、学ぶ場所の必要性が分かりました。	
子供を支える仕組みB	子どもたちの学びを支える地域未来塾②
活動報告Ⅵ	小牧市こども未来部こども政策課 係長 若林 剛 氏
小牧市で平成29年度から行われている、地域未来塾「駒来塾」について御紹介いただきました。生活困窮や不登校、発達障がいなどで、学習が困難な中学生を対象に、市内5会場で週1回、無料で学習支援を行い、基礎学力の定着と学習習慣の形成、中学生の居場所づくりに向けて活動しています。講師は教員OBや教員免許保持者、学生・地域ボランティアが担当し、安心して学習できる環境を実現するとともに、できるようになった経験を通して、自己肯定感を高めることを目指しています。子供が学びをあきらめないためには、支援員の確保や適応教室、保護者との連携強化が大切だと分かりました。	



第5日目 「CS・地域学校協働活動における課題と展望」	
連携・協働の展望A	各地域の取組からこれからの学校と地域の連携・協働について考えよう
活動報告Ⅶ	春日井市藤山台校区学校運営協議会 会長 伊藤 隆次 氏 津島市立南小学校 教頭 松岡 大輔 氏 常滑市立南陵中学校 教頭 山口 雅俊 氏 豊田市立前山小学校 地域学校協働活動推進員 栗本 美幸 氏 豊橋市立磯辺小学校 学校運営協議会 会長 兵頭 重二 氏 副会長 上村 祥子 氏 校長 稲田 恒久 氏 教頭 豊田 純子 氏
5つの活動団体ごとにブースを設け、ポスターセッション形式で発表と意見交換会を行いました。小学校の総合的な学習の時間に地域の大人たちも参加し、探究活動をした取組や地域の専門家を講師に招いて天体観測を行った取組、小学校内に保護者や地域の人が集まれるカフェを開設し、世代を超えた交流を実現させた取組など、それぞれの地域の特性を生かした内容が紹介されました。様々なブースを巡りながら、熱心に話を聞いたり、質問をしたりする受講者の姿があり、とても有意義な情報交換の時間となりました。そして、様々な事例を知ることやノウハウを共有することの有用性も感じました。 	
連携・協働の展望B	これからの「学校と地域の連携・協働」の在り方
講義Ⅴ (紙面開催)	ゆめ☆学びネット 代表 河内長野市立美加の台小学校運営協議会 副会長 文部科学省CSマイスター 大谷 裕美子 氏
都合により、急遽、紙面での開催となりました。資料から、校長のビジョンを軸に、学校と地域が対等な立場で「熟議」と「協働」を重ね、子供たちの学びと育ちを支える体制づくりを目指すことで、教職員の負担軽減や地域の活性化につながっていくことや、それらが子供の自己肯定感の向上にもつながることが分かりました。また、地域ぐるみで「学びをあきらめない子供」の実現に向け、学校と地域が同じ目標に向かって、同一歩調で進めていくことの重要性を学びました。 	